特集 No.548 Special feature article

全国被災地語り部シンポin東北

世代を超えて「KATARIBE」つなぐ

東日本大震災からまもなく9年を迎える2月24－25日の2日間、宮城県・南三陸町の南三陸ホテル観洋と、同町内で「第5回全国被災地語り部シンポジウムin東北」が開催された。「『KATARIBE』を世界へ」をテーマに、全国から約400人の「語り部」らが参加。語り部としての取り組みと課題、震災遺構、記憶と記録、語り部の未来について話し合った。「被災地」と「未災地」を結び、次の世代や第2の語り部の育成に努めていくと宣言し、次回の開催地・兵庫県神戸市につなげていく活動を取材した。 【長谷川 貴人】

第1回、第3回全国被災地語り部シンポジウムは、同じ南三陸ホテル観洋で行われた。第2回は兵庫県・淡路島の淡路夢舞台国際会議場、前回（第4回）は熊本県熊本市などで開かれた。

5回目を迎えた今大会の冒頭、阿部隆二郎実行委員長（南三陸町地域観光復興協議会長）があいさつを行った。はじめに過去の大会を通じて、「全国被災地の方々とネットワークを作り、語り部の勉強会や震災遺構の大切さなどを学び合い、情報交換と共有に努めてきた」と振り返った。

このような活動が評価され、南三陸ホテル観洋は昨年、第14回マニュフェスト大賞で最優秀コミュニケーション戦略賞を受賞したことを報告。「震災の風化を防ぎ、震災の教訓を次の世代、そして未災地の人々に伝えていかなければならない」と力強く語った。

基調講演は、政策研究大学院大学客員教授で元国土交通省事務次官の徳山日出男氏が登壇した。「教訓が命を救う―『語り部』のもつ尊い使命」をテーマに、津波の爪痕を伝えるため、伝承施設や震災遺構を通じた情報の発信について語った。

外国にも存在する津波博物館の取り組みや、昨年開催した「日米津波フォーラム」など、災害の伝承事例を紹介した。

「災害は知識と備えで乗り越えることができる」と述べ、「世界中からの支援を受け、復興に向かうことができたのでは」と指摘。「復興するのと同時に恩返しをしようではないか。教訓を世界に伝えることで大変な貢献ができる」と考えを語った。

登壇者は、北淡震災記念公園総支配人の米山正幸氏、旅館宝来館女将の岩崎昭子氏、気仙沼市震災復興企画部部長の小野寺憲一氏、映画「一陽来復Life Goes On」監督の尹美亜氏（ユン・ミア）。コーディネーターは復興みなさん会代表の佐藤光莉さんはプレゼンテーションを行い、「震災を未来に語り継いでいける語り部になりたい」と発表した。

その後、パネルディスカッション「語り部の未来（次代の）語り部に行うことが大事」と訴えた。

岩崎氏は自身の活動を語り、「今一生懸命生きて刻んだ時間の中で出た結果を報告することしかできない」と話した。

小野寺氏は「語り部活動の（中高生の広がりまざまな被災地の現状を伝える映像や写真パネルが大切。伝えるために得た知識は忘れず、震災時に対応できる」と強調。

尹氏は「吐き出す語り部」も必要と伝え、話すことで気持ちの整理ができた人の話を語った。

分科会では①「KATARIBE（語り部）を世界へ」②「語り部としてきる場がつくれたら良いのでは」とまとめた。

夕刻からは立食形式の交流会、午後8時からはホテルのロビーでマリンバやピアノ、シャンソンのコンサートと続いた。

ロビーには、全国のさまざまな被災地の現状を伝える映像や写真パネルも展示。参加者や宿泊客らは足を止め、熱心に見詰めていた。

2日目は事例発表から「南三陸宣言」も発表

翌25日は、語り部の代表として、上山八幡宮禰宜の工藤真弓氏、震災語り部で元南三陸消防署副署長の佐藤誠悦氏が事例発表を行った。続いて、南三陸ホテル観洋とリクルートライフスタイル、VISIT東北が、共同で語り部に関する事業や取り組みを紹介した。

閉会式では、北淡震災記念公園総支配人の米山正幸氏が、「私たち被災地語り部（KATARIBE）」は、10年目を迎える東日本大震災被災地、宮城県南三陸町に国内外から集い、2日間、取り組みと課題、震災遺構、記憶と記録、語り部の未来について話し合いました。『誰もが語り部』として、シンポジウムで得た知見を広く発信する」と、全国被災地語り部「南三陸宣言」を読み上げた。

◇

「1、災害による試練を乗り越え、地域、歴史を学ぶことで、知識を知恵に変え、時代・社会にあわせて、言葉、映像、写真、歌、美術、文学、多言語、Webなどアナログとデジタルを組み合わせた発信方法を工夫し多様な形で伝承します。

2、聞き手に伝わるよう、世代を超えて取り組み、縦と横のネットワークをつなげています。

3、命を守るため、教訓を被災地と被災地、そして未災地と未来に伝え、次世代や第2の語り部の育成に努めます」。

次回6回目は、兵庫県神戸市での開催を予定している。

阿部隆二郎実行委員長

全国から語り部らが集まった

南三陸ホテル観洋が毎日運行する語り部バス

パネルディスカッションのようす

第1分科会「KATARIBE（語り部）を世界へ」

米山正幸氏が「語り部南三陸宣言」

▲地元小学生らが若き語り部として登壇▼

南三陸町、大川小学校（石巻市）を「語り部」と視察

南三陸ホテル観洋が、2012年2月から毎日運行している「語り部バス」。自らも被災者となった同ホテルのスタッフが「語り部」となって、当時のようすを語る。街のようすを見て回るだけではわからない、実体験や教訓も伝えてくれる。

震災遺構「高野会館」を語り部と見学

当時建物右上の赤い点線まで津波で浸水した

周りは住宅地だった大川小学校（全景）

74人の児童が犠牲となった大川小学校を視察

防災・減災への備え
震災の経験を現地で語る

全国被災地語り部シンポジウムに先立ち、24日の午前中も「震災を風化させないための語り部バス」を運行。戸倉地区や志津川地区を視察した。

震災遺構として保存されている総合結婚式場「高野会館」の内部を「語り部」とともに見学した。

東日本大震災当日、高野会館では町の高齢者が集い、芸能発表会が開かれていたが、現場の決断と行動で327人と2匹の犬の命が救われた。同館スタッフは、定期的に避難訓練を実施しており、各階に緊急時用の備蓄物資を備えていた。また、当時の判断と最善を尽くした行動、津波の高さや破壊力を伝えられる場所として保存された。

翌25日には、語り部オプショナルツアーとして「海の見える命の森コース」、「大川小学校コース（石巻市）」の2コースを実施した。

大川小学校は全校児童108人のうち、74人の尊い命が犠牲になった。教職員も10人が亡くなった。海から大川小までの距離は3・7㌔。地震発生から高さ8・6㍍の津波が同校を襲うまで51分の猶予があった。学校裏には、毎年3月にシイタケ栽培の体験学習を行っていた山がある。視察者らは実際に裏山にも登ったが、校庭から津波の高さ8・6㍍地点まで1分もかけずに辿り着く。だが、教職員と児童がこの裏山に避難することはなかった。何故、反対にある川の方面に避難させたのか、ガイドを務めた児童の遺族（父親）がやるせない思いを語った。

校庭の壁画には、大川小の校歌「未来を拓く」が刻まれていた。ここは未来を拓く場所なのだ。

INDEX
19年日本人国内旅行消費7%増 …… ②
コロナ支援拡大を赤羽大臣に要望 …… ②
勝浦ホテル三日月が営業再開 …… ③
NAA、1月旅客数など最高値 …… ⑥
持続可能な観光立国探る …… ⑦
富士の国やまなし特集 …… ⑧－⑫

購読・見本紙のお申し込み
☎03(3834)2718
http://www.ryoko-net.co.jp

ANAで行くマイホリデー
myHOLiDAY
人が好き、旅が好き、地球が好き
株式会社スカイツアーズ
SKYTOURS CO.,LTD
www.skytours.co.jp
スカイツアーズ 東京支店 検索
沖縄本社 TEL 098－863－0491
東京支店 TEL 03－3433－3401
大阪支店 TEL 06－6367－1363

美味しく食べて健康を楽しめる商品の製造卸を致しております
happy company
～健康であることの幸せを応援します～
株式会社 ハッピーカンパニー
本社 〒405-0002 山梨県山梨東1688
TEL:0553-23-3521 FAX:0553-22-8037
https://www.happycompany.co.jp/

ビッグホリデー
お客様を幸せに
ビジネスパートナーを幸せに
私たちは、
最高の余暇を演出するために
常に前向きに努力を惜しまず
頑張ります。
ビッグホリデー株式会社
〒113-8401東京都文京区本郷3-19-2BHビル
TEL 03-3818-5111（代）